

下妻市水道ビジョン

Shimotsuma City Waterworks Vision

概要版



平成30年3月

下妻市水道ビジョン策定の趣旨

現在、国内の水道は高普及率を達成し、社会基盤を支えるライフラインとして欠かせないものとなっています。しかしながら、人口や給水量の減少に伴う料金収入の減収、団塊世代の退職による技術継承問題、老朽化施設の増加、地震等の災害リスク、環境への配慮といった様々な課題も抱えています。

このような水道事業を取り巻く環境は本市においても例外ではありません。市民へ安全でおいしい水の安定供給を持続させるため、中長期的な将来を見据えた事業計画を立案し、水道事業の健全な運営を目指して「下妻市水道ビジョン」を策定することとしました。



【下妻市水道事業給水区域図】



現状と課題

現在、本市水道事業は施設や設備の老朽化や耐震化、収益性が低いなどの問題を抱えています。特に、砂沼浄水場の一部施設は運転開始から30年以上経過し、更新の時期を迎えます。また、配水池の耐震化率は9.6%となっており、県内平均や全国平均と比較し低い状況となっています。今後施設や設備の更新や耐震化を推進しなければなりません。料金回収率が低い等、財政に課題があります。



コンクリートの劣化

【老朽化状況（砂沼浄水場）】



【配水池の耐震化率】



【料金回収率】

※配水池の耐震化率 = (耐震対策の施された配水池有効水量 / 配水池有効水量) × 100 ※料金回収率 = (供給単価 ÷ 給水原価) × 100

※配水池の耐震化率及び料金回収率は水道統計(日本水道協会発行)を基に算出

理想像と実現方策

上記の課題解決を目指し、安全・強靱・持続の観点から基本理念・理想像・目標を設定しました。そして、これらを達成するための実現方策を実行していきます。

基本理念 安全・安心な市民生活を支える持続可能な水道

理想像	目標	実現方策
安全 安心・安全な水を地域のおまねく皆様に提供できる水道	【安全①】原水水質に適した浄水処理の一層の徹底 【安全②】水源から蛇口に至るまでの水質の適切な管理 【安全③】安全性に関する情報の積極的な公開	・砂沼浄水場更新事業【安全①】 ・老朽化設備の維持管理・更新【安全①】 ・水安全計画の策定【安全②】 ・信頼性向上の取り組み【安全③】
強靱 災害に強く、非常時への備えがある水道	【強靱①】全ての基幹施設の耐震化 【強靱②】給水における重要拠点までの配水管の耐震化 【強靱③】応急活動・応急給水体制の構築	・基幹施設の耐震化【強靱①】 ・管路の耐震化計画策定【強靱②】 ・災害時対応マニュアルの策定【強靱③】
持続 健全かつ利用者の皆様に納得いただける事業経営	【持続①】適正な料金収入の確保 【持続②】標準化・マニュアル作成等による技術の蓄積・継承 【持続③】施設の統廃合や近隣との連携による事業合理化 【持続④】省エネルギー対策の推進	・水道料金の最適化に関する検討【持続①】 ・人材育成・技術継承【持続②】 ・施設統廃合検討【持続③】 ・官民連携についての調査・研究【持続③】 ・省エネルギー対策(省エネ機器の採用)【持続④】

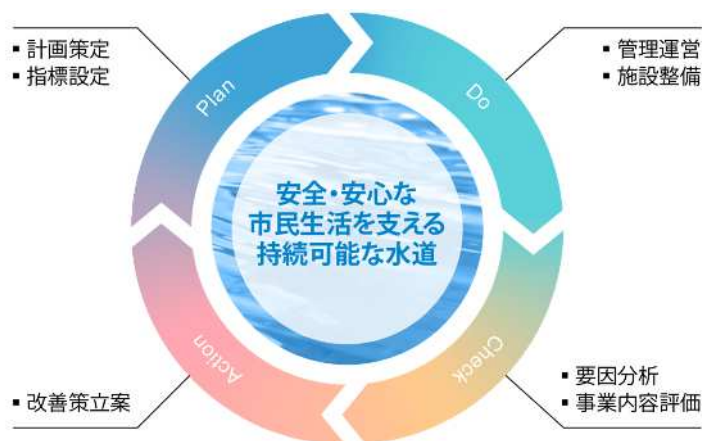
事業化計画

今後10年間は浄水場更新や耐震化、各種計画策定を中心に事業を進めていきます。

事業内容		2018 (H30)	2019 (H31)	2020 (H32)	2021 (H33)	2022 (H34)	2023 (H35)	2024 (H36)	2025 (H37)	2026 (H38)	2027 (H39)	目標年度 以降	
砂沼浄水場 更新	ろ過施設	→											
	施設 耐震化	砂沼 浄水場	2系処理施設										→
排水処理施設									→				
1号配水池							→						
宗道 浄水場		浄水処理施設										→	
		1・2・3号配水池											→
各種計画 策定	水安全計画					→							
	管路耐震化計画							→					
	危機管理対策 マニュアル策定						→						
	料金最適化に 関する検討			→									
老朽設備補修・更新		→											
管路工事		→											

フォローアップ

下妻市水道ビジョンでは、今後10年間の水道事業運営の方向性について示しましたが、事業の進捗状況等に応じフォローアップし、環境の変化に対応するよう4～5年おきに見直しを図る予定です。



下妻市上下水道課

TEL 0296-44-5311 FAX 0296-44-5312

〒304-0056 茨城県下妻市長塚乙89-1